オービュッソン、宮崎駿の空想世界をタピスリーに織る

L'IMAGINAIRE DE HAYAO MIYAZAKI EN TAPISSERIE D'AUBUSSON

プレス資料
2022年11月

オービュッソン国際タピスリーセンター
Cité internationale de la tapisserie Aubusson

目　次

オービュッソン タピスリーの新たな挑戦 4

大型組み物タピスリーの伝統への回帰 5

選択、引用された作品 6

組み物タピスリーの制作過程 11

シリーズ第 1 弾のタピスリー制作 12

プロジェクト進行スケジュール 14

宮崎駿プロフィール 15

プロジェクトをめぐって 16

実用情報 17

はじめに

日本とフランスは、遠い昔から文化、歴史、国民の感受性、秀逸な技術とノウハウなどで、互いを魅了し合って来ました。今日これに加わったのが、両国が共有するイラストやアニメ映画への情熱です。
フランス中央部オービュッソンにある国際タピスリーセンターは、ユネスコ無形文化遺産にも登録されたその比類ない織物の技術を以って大規模なプロジェクトに取り掛かりました。世界的なアニメ映画の巨匠、宮崎駿監督の作品をシリーズでタピスリーに表現しようというものです。「オービュッソン、宮崎駿の空想世界をタピスリーに織る」と銘打ったこのプロジェクトは、国際タピスリーセンターとかの高名なスタジオジブリの間に結ばれた協定により実現しました。
公的機関（注１）である国際タピスリーセンターがその総力を挙げた挑戦にあたって、以下のような請願を立てました。この企画が日仏両国を結ぶ文化と芸術の歴史の一部として刻まれること、また同時にオービュッソンのタピスリーとその技術の歴史に新たな１ページを開くこと。タピスリーの歴史に新たな意味づけを与えるこれら前代未聞の作品群は、あらゆる年齢層の関心を引き寄せるとともに、世界中を旅して展示されるという使命を負っています。その最初の行き先は日本です。
シリーズ第１弾「もののけ姫」のタピスリーのトンベ・ド・メティエ（織り上がったタピスリーを織機からはずす儀式）および完成作品のお披露目は2022年3月25日に行われ、多くのテレビ局が放映する一大イベントとなりました。YouTubeによるライブ中継はフランスでも日本でも大変多くの耳目を集め、オービュッソンのタピスリー史上最大のメディア露出を得たイベントとなりました。宮崎駿の作品をタピスリー化する試みは、衆目の一致するところ大成功を収め、とりわけ画面中の光線の表現は高い評価を受けました。さらに3作品の完成披露が2023年前半に予定されており、その模様は国際タピスリーセンターのYouTubeで実況中継されます。
宮崎駿の天才的な映像の数々をオービュッソンのタピスリー技術を以って解釈・表現して行くというこの挑戦は、2024-25年までかけて、織物という形の見事な文化遺産創造へと至る予定です。これを機会に日仏両国のクリエイターの出会いや新たなプロジェクトも、現代の映像や空想世界とその織物による表現をめぐって増えて行くことでしょう。
最後になりますが、フランス観光開発機構東京事務所とヌーヴェル・アキテーヌ地方観光局のご協力により、2023年にはオービュッソン、および同じ工房を持つ隣町フェルタンへの没入体験が日本人ビジター向けに企画され、さまざまな技術ノウハウがどのように巨大なタピスリー制作を実現したかをよりよく理解してもらえることと思います。

オービュッソン国際タピスリーセンター
館長　エマニュエル・ジェラール
Emmanuel Gérard
Directeur de la Cité internationale

1.　ヌーヴェル・アキテーヌ地方議会、クルーズ県議会、クルーズ・グラン・シュッド市町村圏が設立したローカル公設機関。国およびEU（欧州地域開発基金FEDER経由）からも多大な支援を受ける。総裁はクルーズ県議会議長ヴァレリー・シモネ。

オービュッソン タピスリーの新たな挑戦

■ オービュッソン国際タピスリーセンターは、株式会社スタジオジブリとの協定に調印しました。日本のアニメ映画の巨匠、宮崎駿監督の作品の名場面を、今後シリーズでオービュッソンの巨大タピスリーに表現して行こうというものです。

ヌーヴェル・アキテーヌ地方オービュッソンにある国際タピスリーセンターは、2009年にユネスコ無形文化遺産にも登録されたオービュッソンのタピスリーの保存と広報宣伝を担う機関です。
国際タピスリーセンターは、過去10年以上にわたり世界に知られるこのフランス伝統技術の評価を高めることに尽力して来ました。活動の柱は以下の４点です。「フランスの美術館」Musée de Franceラベルを受けた主要作品コレクションの保存と公開。タピスリー制作関連業の保存と後継者の養成（リムーザン地方のGRETA～成人のための職業訓練機関～とともに工芸職人免状を交付）。現代にふさわしい基金創設のための意欲的な政策展開。ユニークなノウハウを活かしてオービュッソンとフェルタン一帯のテキスタイル芸術／織物芸術のエコシステム開発。
国際タピスリーセンターが初めて組み物の巨大タピスリーを発表したのは2017年のことでした。「オービュッソン、トールキンを織る」と銘打った企画の目的は「指輪物語」などで知られる英国人作家Ｊ．Ｒ．Ｒ．トールキンJ.R.R. Tolkienのオリジナルイラストを基にした14点の大型タピスリーと２点の小型タピスリーの創作。最初にできた数点はパリのフランス国立図書館（BNF）で2019年から2020年にかけて開催された大トールキン展で公開されました。
同様の企画として2019年7月には国際タピスリーセンターとスタジオジブリの間で協定が調印され、宮崎駿監督のアニメ映画から題材を得た巨大タピスリーの制作プロジェクトが決まりました。「オービュッソン、宮崎駿の空想世界を織る」と題したこの企画では5点の巨大タピスリーが制作されることになり、センターの技術陣が題材として選んだ映画中の画面がスタジオジブリにも承認されました。
国際タピスリーセンターの方針としては、媒体への新しいアプローチによって広い客層にアピールし、この大プロジェクトとその舞台裏を知ってもらうことを目指します。こうした方針に基づく巨大タピスリー制作は、同時にまたセンターの比類ない技術をもってすれば野心的な現代作品制作も可能であると示す機会にもなりました。
このプロジェクトはメディアにも大々的に取り上げられ、日本ではNHKが、宮崎駿の作品がオービュッソンのタピスリーに変身するさまを取材し、放送しています。

大型組み物タピスリーの伝統への回帰

■ 国際タピスリーセンターによる大型組み物タピスリープロジェクトは、巨大織物制作の世界に人々を没入させたいとの意図に応えるものです。

これらの作品は、17～18世紀の叙述的大型組み物タピスリー（物語の中の様々な挿話を描いた連作タピスリー）の伝統に新たに加わるもので、当時は重要な文学作品（ホメロスの「オデュッセイア」、トルクァート・タッソの「エルサレム解放」中のリナルドとアルミーダの挿話など）に題材を得て制作されていました。しかしこうした叙述とタピスリーとの直接的な関係は19世紀になると消滅して行ったようです。
今回の新プロジェクト「オービュッソン、宮崎駿の空想世界を織る」は、アニメ映画の巨匠、宮崎駿の世界を5点の大型組み物タピスリーに転写するということにとりわけ強いこだわりを持っています。アニメの世界をこのようにタピスリーに転写するというのは、極めてまれなことなのです。
国際タピスリーセンターは敬意を以って、ユネスコ無形文化遺産であるオービュッソンのタピスリーと宮崎駿のグラフィック作品との文化的交差に取り組んで行きます。この大型組み物タピスリープロジェクトは、その巨大さゆえに、宮崎駿の創作物の中にこれまでなかったような没入体験ができることになります。タピスリーとは長らく存在するために制作されるもの。シャルル・ル＝ブランの絵による「アレクサンドロス大王物語」（18世紀）やイザーク・モイヨンの絵による「ユリシーズのオデュッセイア」（17世紀）などのタピスリーと同様に、宮崎駿の叙事的、舞台空間的、画像的な世界が彼のアニメ映画とともに時代を超えて存在し続けるのです。

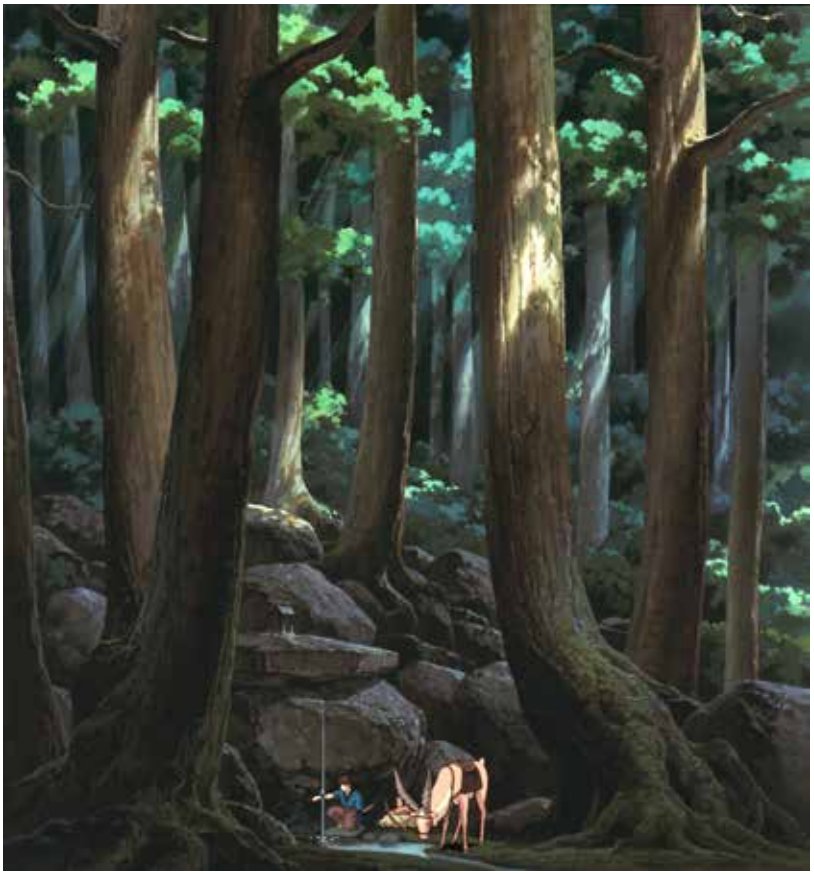
組み物タピスリー tentureとは？

何枚かの図柄を組にして１つの主題を表したタピスリーのことで、ストーリーを語るとともに、同じ物語の中の主要ないくつかの挿話を表現しています。古い時代の組み物タピスリーのテーマは主に神話や聖書、大ヒット小説などでした。
15世紀から19世紀の組み物では、同じ組のタピスリーはそれとわかるよう皆同じ縁飾りがしてありました。国際タピスリーセンターが今回発表する新しい組み物タピスリーは、文学作品、映画作品など異なる表現方法を用いて叙述のチクルスを展開して行きます。

スタジオジブリ制作のアニメから選択、引用された５つの作品

もののけ姫　**Princesse Mononoké, 1997**

機織り開始：2021年3月
織り上がり：2022年3月25日



腕についた呪いの傷を癒すアシタカ（森の中のアシタカとヤックル），
サイズ　5 x 4,60 m. © 1997 Studio Ghibli-ND

場面描写：

悪魔に取り付かれた巨大猪のタタリ神が若い戦士アシタカの腕を傷つけました。呪いを受けたアシタカは、これを解く方法を見つけないと死んでしまいます。アシタカは自身と故郷の国に降りかかった脅威に打ち勝つ希望を胸に、相棒の大カモシカ、ヤックルの背に乗って西へと向かいます。スギの森に身を隠したアシタカは冷たい水で腕を癒すのでした。

宮崎駿のこの作品は人と自然との関係について問いかけています。ここでは森という世界が重要な役割を果たしています。森はこの世の起源、生きものが均衡をとる地点、原初の安らぎの港。宮崎の物語の若い主人公は、人生の入門的な探求を体験します。そこでは、魔法や森のエスプリ、愛する人との出会いなどを通じてこの世のさまざまな真実を発見して行きます。そして相反する2つの価値観からの選択も迫られるのです。ここは意識高く使命感を持った大人への過渡期です。

千と千尋の神隠し　Le Voyage de Chihiro, 2001

機織り開始：2022年1月
織り上がり：2023年1月20日

カオナシの宴会（カオナシに紹介される千尋）予定のサイズ　3 x 7,50 m. © 2001 Studio Ghibli-NDDTM

場面の概要：

カオナシは豚に姿を変えられた両親をさがす千尋を手伝いますが、巨大な大食漢になって行きました。宴会を荒らしまくり、千尋を出せと要求するカオナシ。千尋が河の神にもらった薬草団子を食べさせると、カオナシはそれまでに飲み込んでいた人々をすべて吐き出します。

顔の欠如は人間性の欠如？カオナシは自分さがしをしている孤独な怪物。欲望と誘惑と憑依にとらわれ、実在したいという自分の望みと向き合っているけれど果たせずにいます。鬼の顔が描かれ、床に料理が散乱しているという背景は、この迷える存在の極端な異形の総仕上げのようです。千尋は無邪気で精一杯の抵抗によりカオナシに不満の表明をしますが、居場所も割り当ててやります。そこから友情が芽生えるかもしれません。

ハウルの動く城　Le Château ambulant, 2004

機織り開始：2022年6月
織り上がり：2023年4月21日

ハウルの動く城（夕暮れの動く城）, 予定のサイズ 5 x 5 m.
© 2004 Studio Ghibli-NDDMT

場面の概要：

ソフィーは18歳の娘、それが荒地の魔女の魔法によって90歳の老婆に変えられてしまいます。彼女は住んでいた町を離れてカブの頭をもつカカシに出会い、動く城へ行く道を教えられます。それこそは、若く魅力的で謎めいた魔法使いハウルの住む城だったのです。

宮崎駿の幻想の世界では、生物はまた無生物を活気付ける存在でもあります。カブ頭のカカシから動くハイブリッドの（殆ど動物のような）城まで、不思議な精霊は語ります。いかにこの世界を生きるか、定住がいいのか、あるいは通過者として、すなわち生物と無生物の間を変容しながら生きる、というのもあり得るのでは、と。

ハウルの動く城　Le Château ambulant, 2004

機織り開始：2022年6月
織り上がり：2023年6月16日

ハウルの恐れ（ハウルの枕辺の老ソフィー）, 予定のサイズ　3 x 5,60 m. © 2004 Studio Ghibli-NDDMT

場面の概要：

鳥に姿を変えた魔法使いハウルは戦闘から疲れきって帰って来ました。おまけに城を掃除したときにソフィーが彼の持ち物を動かしたため、ハウルの金髪が黒髪に変わってしまいます。すっかりしょげ返るハウルの枕辺に寄り添うソフィー。ハウルはソフィーに打ち明けます。自分は怖い、王様が他国へ仕掛けた戦争で魔法使いとして果たすべき責任感が自分には欠けていると。そしてソフィーに、自分の母のふりをして王室付き魔法使いサリマンに会い、自分は戦いを拒否すると伝えてくれるよう頼むのでした。

日常の空間の中で、使用人との関係は繰り返し表現されます。魔法使いハウルの寝室は護符のようなものや毛足の長い織物、子ども時代の宝物などで覆い尽くされ、その中でヒロインは若い男と向き合っています。男は自分が恐怖を乗り越えられないという感覚に凝り固まり、思春期を脱け出せずにいます。生と死、自ら選んだ自分のあり方、他者への心遣いなどの概念が、画面上の縦横に見られます。女性が持つ力と勇気が、宮崎駿の本作品の根幹を成しています。

風の谷のナウシカ　**Nausicaä de la vallée du vent, 1984**

機織り開始：2023年後半
織り上がり：2024年後半

オームの犠牲（オームたちのいるパノラマ）, 予定のサイズ　2 x 10 m. © 1984 Studio Ghibli-H

場面の概要：

人間は森に住む巨大な虫オーム（王蟲）を駆除しようとしました。しかし今は毒虫となったオームの軍隊は都市に攻撃を仕掛け、文明は壊滅します。森から遠く離れた場所でオームたちもしまいには餓死し、その死体は毒性のカビに覆われて、大気は死の毒ガスで満たされました。

生き物はしばしばこの世の終わりのような状況で描写されます。これは度重なる戦闘と人間の無定見の結果です。この細長いパノラマに見られるのは荒廃し毒された風景です。宮崎駿は未来予言小説の形で人間の支配の終焉と「自然界からの復讐」を物語ります。ここでは環境に配慮した、というよりも、調和のとれた多様性を求めるサイクルに回帰することが主題になっています。

組み物タピスリーの制作過程

タピスリーの下絵にする図柄を選ぶ

宮崎駿の作品を題材にした組み物タピスリーの制作はひとつの挑戦でした。アニメ映画の映像を、繊維でできたタピスリーという静止画にするというのは前例のないことなのです。タピスリーとして成り立ち、かつ宮崎駿の世界を表現できる絵を選ぶというのが最初の難関でした。アニメではもちろん画面は常に動いており、比較的広い範囲を表す絵の中で画像が静止した場面というのはまれだったのです。この作業では私たちは17世紀の文学作品を基にした組み物タピスリーを参考にしました。そこでは作者は物語の流れの中のある一瞬を選んで具現化し、絵柄の総体を組み立てていました。宮崎駿の作品をタピスリーとして織り上げるという作業の特異な点は、宮崎の信じられないような空想世界に私たちを引き入れるような場面をタピスリー上に創造しなくてはならないという点でした。

縮尺を変える

タピスリーは本来非常に大きなサイズの表現媒体です。織り手たちの作業の手引となる下絵の制作は、将来のタピスリーを作るための単なる拡大版であってはなりません。下絵がアニメ映画から引用された場面であればなおさらです。国際タピスリーセンターの学芸員たちは、この転換作業を以下のように言い慣わしています。「それは単なる拡大作業ではない、織り手たちはよく言っている“デッサン上のごく小さなバラの花から始めたとして、それをよく考えもせず愚かしくも単に拡大だけしていったら、出来上がるのはキャベツだ”拡大するにしても原画のエスプリが見出せるものでなければならない。技術的要素は全体をとらえて考慮に入れなくてはいけない」
見本作りという作業も色や質感等を体感するために非常に重要です。これらの見本によって、その後何ヶ月も続く織り作業の段取りが決定されるのです。

組み物タピスリーの技術面を考察する製織委員会

組み物タピスリーの制作に先立って下絵師、織り師、国際タピスリーセンターの技術陣から構成される製織委員会が立ち上げられ、各タピスリーの最終的な形状の決定、下絵の技術的解釈の検討、素材と質感の選択などに当たりました。

「呪いの傷を癒すアシタカ」を製作中のリュック・ギヨー
© Cité internationale de la tapisserie

シリーズ第１弾の
タピスリー制作

織り作業

宮崎駿シリーズ５点のタピスリーの第１弾「呪いの傷を癒すアシタカ」の制作はアトリエ・タピスリー・ギヨー・オービュッソンに託されました。
織り作業は国際タピスリーセンター内の３つのアトリエのひとつで行われたためガイド付き見学コースに参加すれば、作業の模様を見学したり、織り手たちと交流するのも可能でした。
織り作業は2021年3月7日に始まり、約１年かけて23㎡（5m x 4m60）の巨大なタピスリーが完成しました。

国際タピスリーセンターのアトリエで
「呪いの傷を癒すアシタカ」を制作する
アトリエ・ギヨーの職人たち
© Cité internationale de la tapisserie, 2021

タピスリーの完成

宮崎駿シリーズ最初のタピスリーは2022年3月25日に織り上がって織機から切り離され、国際タピスリーセンターでお披露目されました。このイベントは日仏の多くのテレビ局で放送され、国際タピスリーセンターのYouTubeチャンネルでも実況中継されて1万4000回の視聴があり、これはすべてのタピスリーの歴史の中でも最も注目を集めた完成披露会となりました。
この巨大なタピスリーは、その光の差し具合、奥行き感、宮崎駿作品の尊重のどれを取っても非常に見事なものです。
国際タピスリーセンターで行われたこの特別な完成披露会には、在フランス日本大使、伊原純一閣下もご臨席くださいました。

国際タピスリーセンターに展示された
「呪いの傷を癒すアシタカ」のタピスリー
© Cité internationale de la tapisserie, 2022

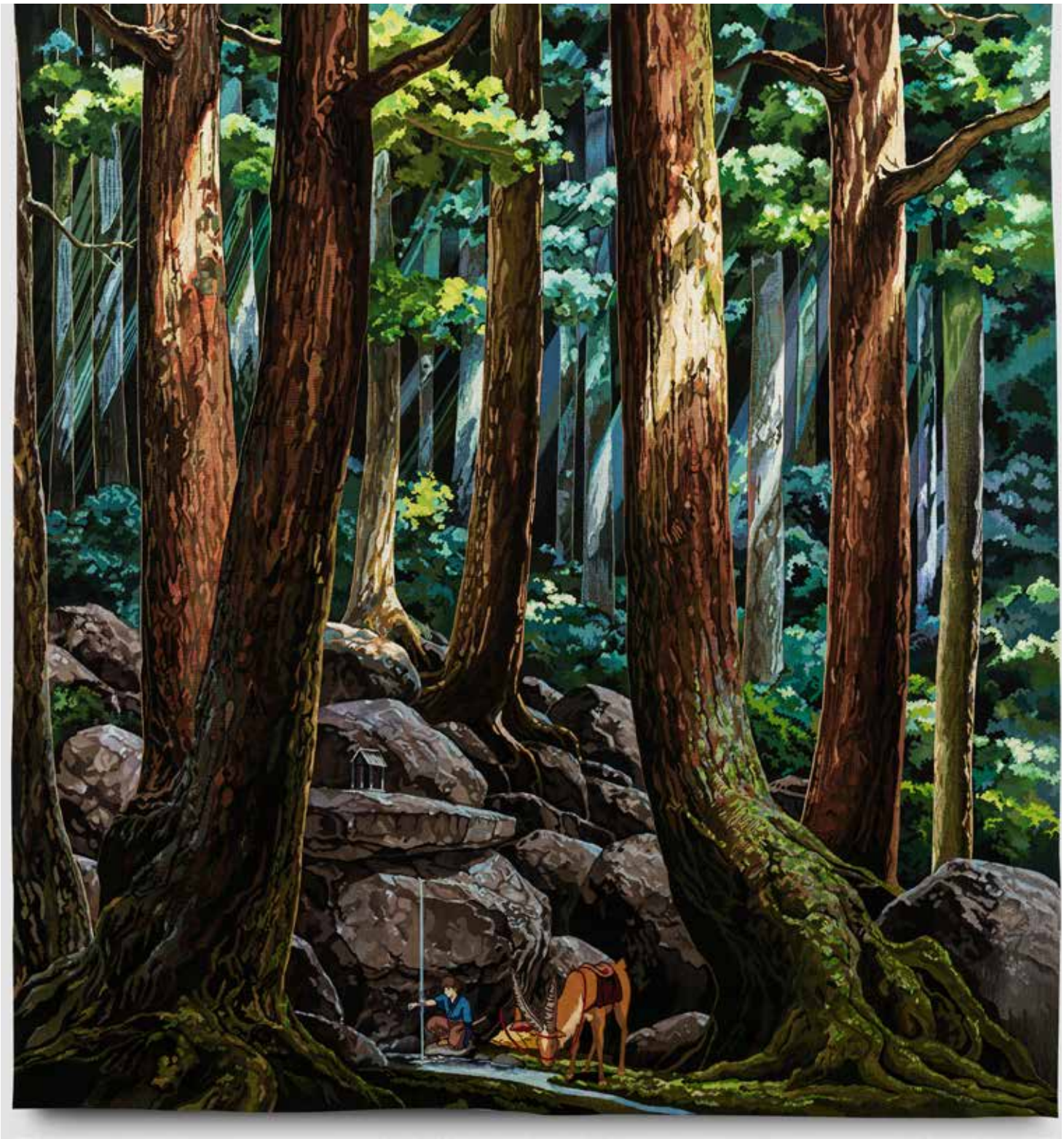


Photo Studio Nicolas Roger : オービュッソンのタピスリー「呪いの傷を癒すアシタカ」© 2022, Cité internationale de la tapisserie - Aubusson | Princesse Mononoké ©1997, Studio Ghibli-ND

プロジェクト進行スケジュール

- 2020年10月16日：ボルドーのMECA（創造経済文化会館）で企画を公式発表
- 2020年10月17日：国際タピスリーセンター内に本プロジェクト専用スペースオープン
- 2021年3月7日：アニメ映画「もののけ姫」の一場面を基にしたシリーズ最初のタピスリー制作開始
- 2022年3月25日：「もののけ姫」による第1のタピスリー完成披露
- 2023年1月20日：「千と千尋の神隠し」による第2のタピスリー完成披露。国際タピスリーセンターのYouTubeで実況中継
- 2023年4月21日：「ハウルの動く城」による第3のタピスリー完成披露。国際タピスリーセンターのYouTubeで実況中継
- 2023年6月16日：「ハウルの動く城」による第4のタピスリー「ハウルの恐れ」完成披露。国際タピスリーセンターのYouTubeで実況中継

組み物タピスリーの全作品完成は2024年晩夏

毛糸のボビン
© Cité internationale de la tapisserie

「オービュッソン、宮崎駿の空想世界を織る」シリーズ最初の作品の織り作業
© Cité internationale de la tapisserie

組み物タピスリーの制作過程

全体について

- アニメ映画の中から使用する画像を選ぶ
- 各タピスリーの最終的な形状を決定
- グアッシュ絵具で織り糸を染めるさまざまな色を作る（原画に忠実に）

個々のタピスリーについて

- 「タピスリーの下絵」のコード化（下絵は織り手が織機で作業するときのガイドとなる）
- 糸（ウール、絹、麻）とその太さを選択。それにより下絵の描き方の技術的詳細が決まる。作品のサイズと合わせ、糸の直径で制作の所要時間とコストを見積もる。
- 最低２点の見本を制作し、方向性を決め、選択をする。
- アトリエや工場に募集をかけ、見本の作製とタピスリー制作のプロポーザルを募る。
- クルーズ県内の様々なアトリエ、工場から募集に応じて提出された見本作品を審査して担当業者を選定し、タピスリー制作にかかる。
- 選定された業者のアトリエもしくは国際タピスリーセンター内のアトリエで織り作業。
- タピスリーの完成披露。「トンベ・ド・メティエ＝織機からの降下」とよばれるこのイベントはしばしば著名人が司会進行に当たる。イベントの模様は国際タピスリーセンターのYouTubeを始めとする各種SNSでも実況中継。各作品の完成披露日程は左記の通り。
- 仕上げ作業（裾の処理、吊り下げシステム）.
- 展示開始（会場に吊り下げ）

宮崎 駿 プロフィール

宮崎駿は1941年東京生まれ。学習院大学政経学部卒業後、東映動画にアニメーターとして入社。高畑勲の下でアニメ「太陽の王子ホルスの大冒険（1968）」の制作に当たる。1971年には高畑とともにアニメスタジオＡプロダクションに移籍し、「パンダコパンダ（1972）」の脚本、原画、アニメを担当。宮崎駿は複数のスタジオで働いたが、高畠とともにズイヨー映像（後の日本アニメーション）、テレコムでも仕事をし、TVアニメ「アルプスの少女ハイジ（1974）」、「母をたずねて三千里（1976）」の制作に参加。初のTVアニメシリーズは「未来少年コナン（1978）」。次に初の監督作品「ルパン三世 カリオストロの城（1979）」を発表。1984年には自身が雑誌「アニメージュ」に連載していた同名の漫画を原作に「風の谷のナウシカ」の脚本、監督。

宮崎駿は高畑勲とともに1985年スタジオジブリを設立。10本のアニメ映画を制作した。その中には「天空の城ラピュタ（1986）」、「となりのトトロ（1988）」、「魔女の宅急便（1989）」、「紅の豚（1992）」、「もののけ姫（1997）」がある。「千と千尋の神隠し（2001）」は日本映画のあらゆる記録を塗り替え、2002年のベルリン国際映画祭で金熊賞、アカデミー賞の長編アニメーション映画賞など多くの賞を獲得した。「ハウルの動く城（2004）」は2004年ヴェネツィア国際映画祭で技術貢献賞を受賞。

宮崎駿自身にも、2005年のヴェネツィア国際映画祭でその映画界でのキャリア全般に対し栄誉金獅子賞が授与された。「崖の上のポニョ（2008）」では原作、脚本、監督。米林宏昌監督の「借りぐらしのアリエッティ（2010）」や長男宮崎吾朗の「コクリコ坂から（2011）」では脚本に参画。最近作「風立ちぬ（2013）」は同年アカデミー賞の長編アニメーション映画賞にノミネートされた。2014年11月には映画界における功績全般に対してアカデミー賞の名誉賞が贈られている。現在は新しい映画を準備中。

宮崎駿は「出発点1979～1996（1996）」など、デッサン集や詩集を含む多数の著作がある。建築デザインも多く手がけており、2001年に開園し自ら館主を務める三鷹の森ジブリ美術館もそのひとつ。2014年7月にはウィル・アイズナー賞を受賞し、「漫画家の殿堂」入りを果たした。

宮崎駿映画作品一覧

ＴＶアニメ

1978 未来少年コナン

アニメーション映画

1979 ルパン三世 カリオストロの城 / 1984 風の谷のナウシカ / 1986 天空の城ラピュタ /
1988 となりのトトロ / 1989 魔女の宅急便 / 1992 紅の豚 / 1997 もののけ姫 /
2001 千と千尋の神隠し / 2004 ハウルの動く城 / 2008 崖の上のポニョ / 2013 風立ちぬ

Crédit photo : image issue du site Festiival de Cannes, https://www.festival-cannes.com/fr/artiste/hayao-miyazaki

プロジェクトをめぐって

■ 国際タピスリーセンターに宮崎駿の専用展示スペース

組み物タピスリーは制作の進行に合わせ、国際タピスリーセンターの見学コース内に設けられた宮崎駿の専用スペースに展示して行きます。

来訪者がこの並外れた文化遺産プロジェクトの世界に浸り切れるよう、2021年5月に新しい可変展示スペースが創設されました。
「オービュッソン、宮崎駿の空想世界を織る」の組み物タピスリープロジェクトは薄暗がりのスペースで展示しています。黒枠に縁取られたアート紙に描かれた将来のタピスリーのさまざまな下絵が、照明に照らされて展示されています。
一方2022年3月25日に織り上がったシリーズ最初のタピスリー「呪いの傷を癒すアシタカ」（「もののけ姫」より）は、明るい光の中での展示です。2023年2月には「カオナシの宴会」（「千と千尋の神隠し」より）がここに加わります。
将来的には国際タピスリーセンターの増築部分に専用スペースが設けられる予定です。

■ 国際タピスリーセンター機織り工房の見学

現在国際タピスリーセンターの工房では、アニメ映画「ハウルの動く城」に題材を取った2点のタピスリーの制作が進んでいます。これらの工房ではガイド付き見学コースが設けられており、機織りの作業を見たり織り手と交流することができます。
Youtubeのミニシリーズ「オービュッソン、リュックと姫」は「もののけ姫」の一場面を表したシリーズ最初のタピスリーの制作過程を、オービュッソンで修行中の若い織り手リュック（タピスリー織り手のひとり）の経験を通してたどれるものでした。

「リュックと姫」その1はこちら：
Episode 1 : https://www.youtube.com/watch?v=-7WdDSCtDlI

■ 織り上がりを祝う

「トンベ・ド・メティエ tombée de métier（織機からの降下）」とはタピスリー制作の最後の段階をいいます。関係者がひとりずつタピスリーの端の糸を切り、タピスリーを織機から切り離す儀式という形式をとります。織る作業は裏面から行うため、このとき初めてタピスリーの全貌を表側から見ることになるのです。
国際タピスリーセンターでは、今後も宮崎駿シリーズのすべてのタピスリーについて皆がイベントに参加できるようYoutubeを通じて「トンベ・ド・メティエ」のセレモニーを実況中継します。

シリーズ最初のタピスリーの「トンベ・ド・メティエ」ライブ中継はこちら：
https://youtu.be/1uzgGi_Lpls

オービュッソン
国際タピスリーセンター
実用情報とコンタクト先

入場料

正規料金　8 €：

割引料金　5,50 €：
学生、25 歳未満、65 歳以上
10 人以上の団体、carte Cézam 保持者

無料：
18 歳未満、ICOM（国際博物館会議）カード、
carte de presse（プレスカード）保持者

開館時間

9月～6月
9：30～12：00、14：00～18：00.
火曜休館

7月～8月
10：00～18：00
火曜午前中を除き毎日開館

ガイド付き見学

ガイド付き見学は要予約:
所要時間：1時間～1時間半
問合せは受付まで + 33 (0)5 55 66 66 66
（代表番号にかけて 2 をチョイス）
無料のガイド付き見学：7月、8月の，
10：30～15：00
センター内のアトリエ見学：問合せは受付まで

プレスコンタクト

日本：

Atout France
Mayumi MASUDA, attachée de Presse
フランス観光開発機構
広報担当　増田真由美
mayumi.masuda@atout-france.fr

フランス：

Agence Alambret
Émilie Harford
emilie.h@alambret.com
+ 33 (0)1 48 87 70 77

Cité internationale de la tapisserie
Jean Philippe Trapp
jean-philippe.trapp@cite-tapisserie.fr
+ 33 (0)9 72 48 15 64
+ 33 (0)6 63 20 58 29

広報用写真の貸出しはお問合せください：

- 「呪いの傷を癒すアシタカ *Ashitaka soulage sa blessure démoniaque*」のタピスリー
- 「カオナシの宴会 *Le banquet du Sans visage*」の下絵
- 「ハウルの動く城 *Le Château ambulant*」の下絵

www.cite-tapisserie.fr
@CiteAubusson
@CiteTapisserie
@citetapisserieaubusson

オービュッソン
国際タピスリーセンター
Cité internationale de la tapisserie – Aubusson

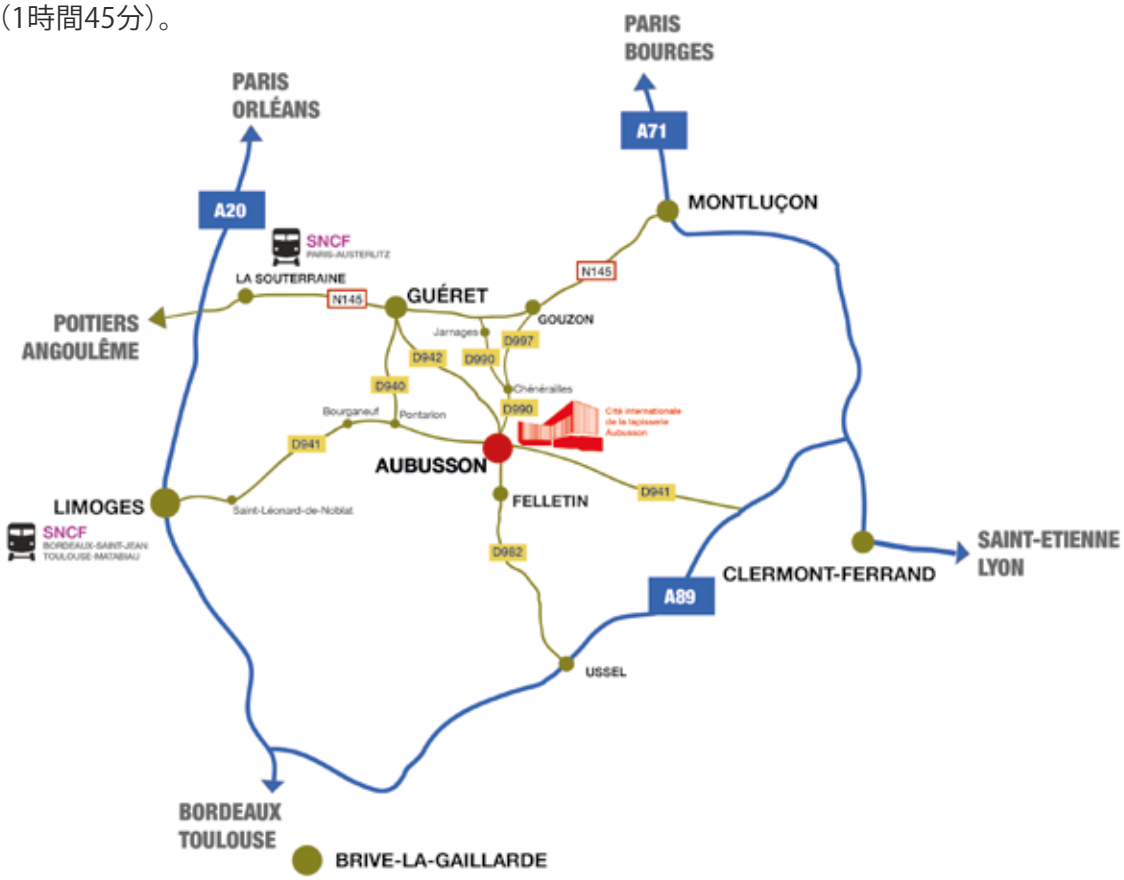
www.cite-tapisserie.fr

郵便宛先
Rue des Arts - BP 89 23200 AUBUSSON

見学者駐車場入口
Rue Williams-Dumazet 23200 AUBUSSON

アクセス

鉄道

パリから：
パリ・オーステルリッツ駅から都市間特急列車（インターシティ）でラ・ステレーヌ　La Souterraineへ（2時間40分）、La Souterraineからオービュッソン Aubussonまではバス（1時間半）。

ボルドーから：
ボルドー・サン・ジャン　Bordeaux　Saint-Jean駅から普通列車（TER）で、リモージュ・ベネディクタン Limoges　Benedictin駅（2時間半～3時間）、リモージュからは普通列車（TER）またはバスでオービュッソン Aubussonまで（1時間45分）。